

表 7: 修了要件

科目群	備考	種別		
		必修	選択 必修	選択
共通必修科目群(倫理科目)	2科目から選択	—	2単位	—
事業アーキテクチャ科目群	講義・演習型科目(経営戦略特論等)、事例研究型科目の8科目から選択(PBL型科目の履修前に単位取得する必要がある)	—	10単位	—
専門科目群	情報アーキテクチャ専攻または創造技術専攻の既存の専門科目から選択	—		16単位
事業アーキテクト特別演習	PBL型科目(2年次)	12単位	—	—

修了要件の40単位の総授業時間数は690時間(30時間×14科目+135×2科目)、総時間は1,800時間以上である。各科目の単位数等は上記の表1を参照されたい。

3.1.7 担当教員

表8に、当プログラムの授業担当教員一覧を示す。このほかに、「事業アーキテクチャ特論」、「ITソリューション特論」等では産業界からゲスト講師を招聘する。

表 8: 担当教員

教員名	専任	実務家	当事業で担当する教育内容	学位・業績・経歴
川田 誠一	○		技術倫理	本学学長、工学博士
國澤 好衛	○	○	プロダクツデザイン、事業企画	本学教授、元(株)東芝
酒森 潔	○	○	プロジェクトマネジメント、システム開発、事業計画	本学教授、元(株)日本IBM等(ソリューション開発部長・コンサルタント等)
小山 裕司	○	○	システム開発、経営戦略、新規事業開発、事業計画	本学教授、修士(工学)、元(株)テンアート二等(CTO・執行役)

教員名	専任	実務家	当事業で担当する教育内容	学位・業績・経歴
				員・事業部長等)
戸沢 義夫	○	○	情報戦略、業務改革	本学教授、理学修士、元(株)日本 IBM 等(Distinguished Engineer・コンサルタント等)
成田 雅彦	○	○	知的財産	本学教授、博士(工学)、元富士通(株)
松尾 徳朗	○		観光情報、情報経済、事業継続	本学教授、博士(工学)
吉田 敏	○	○	イノベーション戦略、技術経営	本学教授、博士(工学)・元(株)大林組(建築意匠設計等)
嶋津 恵子	○	○	システム戦略、事業企画・計画	元 JAXA 等
越水 重臣	○	○	管理工学	本学教授、博士(工学)、元イーストマン・コダック・ジャパン(株)
前田 充浩	○		国際経営	本学教授、元経済産業省等
池本 浩幸	○	○	感性工学、サービスデザイン	本学教授、博士(工学)、元(株)東芝
小山 登		○	デザイン・マネジメント	元本学教授、元トヨタ自動車(株)
亀井 省吾		○	中小企業・ベンチャー経営	本学特任准教授、博士(学術)、元東京海上日動火災保険(株)等
松島 桂樹		○	経営戦略	経営学博士、元(株)日本 IBM 等
川名 周		○	マーケティング	博報堂
永谷 裕子			リーダーシップ	(株)ASKA Planning
小酒井 正和			財務・会計	玉川大学 准教授、博士(経営学)
大塚 有希子			組織	(株)富士ゼロックス総合教育研究所等

教員名	専任	実務家	当事業で担当する教育内容	学位・業績・経歴
六川 浩明		○	法規	元スタンフォード大学客員研究員等
伏見 靖			技術倫理	鈴榮特許総合事務所、行政書士
安井 和彦		○	事業戦略	元(株)日本 IBM
前野 譲二			情報技術者倫理	早稲田大学教育学部 非常勤講師
濱 久人			プロジェクトマネジメント	(株)NTT データユニバーシティ等
新井 宏征		○	シナリオ・プランニング	元 SAP ジャパン(株)等
伊賀 聡一郎			サービスデザイン	Palo Alto Research Center 日本代表等

3.1.8 ファカルティ・ディベロップメント

当教育プログラム担当教員等から構成されるプログラム開発委員会で、当教育プログラムの狙い・目標・現状・課題等の理解を共有し、当教育プログラムの開発を推進する。また、社会人学び直し推進委員会(協議の場)及び本学運営諮問会議と連携し、産業界等の要望を反映する。加えて、本学常設の FD 委員会と連携し、各科目及び教育プログラムに対する以下の FD 活動を行う。

- 学生授業評価による PDCA サイクル(各学期): 学生の理解度を確認するとともに、教育内容・方法の改善のため、学生に対して授業評価アンケートを行う。教員はこのアンケート結果に基づいて授業を改善するためのアクションプランを作成している。
- FD フォーラム(年 2 回程度): 教員の授業内容・手法の改善のため、定期的に FD フォーラムを開催する。FD フォーラムでは外部有識者による講演、参加者の討論会等を行う。年 2 回のうち 1 回は、社会人学び直しに着目したテーマで開催し、当事業へのフィードバックを行う。
- 『AIIT FD レポート』の発行: 本学の FD 活動をまとめた冊子を年 2 回発行し、学内外に広く配布する。
- 教員相互の授業検証(授業参観): 本学では、すべての講義を動画コンテンツとして収録し、インターネット経由等で視聴できる講義支援システムが構築されている。また、すべての講義

室の通路壁面はガラス張りにしてある。これらの仕組み及び環境を教員相互の授業検証(参観)及び、授業手法と授業内容の改善に活用している。

- 成績分布による PDCA サイクル(各学期): 当教育プログラムのすべての科目に関し、担当教員が責任を持って成績評価結果の分散及び総評をプログラム開発委員会に報告し、疑義があれば対処を行うという成績分布による PDCA サイクルを回す。
- 運営諮問会議からの答申: 外部委員(産業界)から構成される「運営諮問会議」からの答申に従った教育・研究活動の改善を行う。
- PBL 型科目及び事例研究型科目の FD 活動: PBL 研究会(すべての専任教員が参加、1泊2日の合宿)及び PBL 検討部会(教員及び企業メンバーが参加)で、教員間の連携・教育体制の構築・教育手法・事例・課題等の実証・改善を継続的に行い、教育効果を高める。

3.2 事例研究型教育手法

当教育プログラムでは、事業開発・問題解決に関するメソッドの修得・経験のために以下の流れを取る。

《第1段階》

- 事業アーキテクチャ特論(1年次) 講義・演習型科目
(現状の理解)医療、農業、観光、スポーツ等の分野から識者を招聘し、現状、今後、理想、課題、業務効率、IT・マネジメントの活用等を俯瞰的に学ぶ。

《第2段階》

- 事業アーキテクチャ研究(1年次第2学期・集中講義) 事例研究型科目
(事例の研究)実際の事例から、既存の取り組みの成功・失敗の研究(要因分析)
- 事業アーキテクチャ設計(1年次第4学期・集中講義) 事例研究型科目
(問題解決の提案)問題解決のための情報分析、戦略立案、事業提案、設計、実現可能性の検証、意思決定

《第3段階》

- 事業アーキテクチャ特別演習1(2年次第1~2学期) PBL 型科目
- 事業アーキテクチャ特別演習2(2年次第3~4学期) PBL 型科目
事業提案・設計から、実際の開発・検証

第2段階(1年次の第2、4学期の選択必修科目である事業アーキテクチャ研究及び設計では、